

プロフィール

宮浦 富保（みやうら とみやす）

龍谷大学理工学部教授（環境ソリューション工学科）、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター センター長

1957年生まれ。名古屋大学農学部林学科卒業後、同大学大学院に進学。その後、同大学農学部造林学研究室で大学院研究生として研究に従事。林野庁林木育種センター（現：独立行政法人林木育種センター）研究室長を経て、現在に至る。博士（農学）。専門分野は、森林生態学、林木の遺伝・育種。

『里山学のすすめ』（編著、昭和堂、2007）、「樹木の成長について」（龍谷理工ジャーナル14、4-11、2002）、「関東育種基本区で選抜されたスギ精英樹クローンと後代家系の樹高成長と林地生産力との関係」（日本林学会誌84、50-53、2002）、「林木育種プロジェクト（4）－育種集団林プロジェクト－」（林木の育種199、28-31、2001）「林木育種の効果」（林木育種技術ニュース12、1、2001）、「東北育種基本区次代検定林におけるスギ・アカマツの遺伝パラメーターの推定－スギ次世代精英樹（準第二世代精英樹）の選抜について－」（林木育種センター東北育種場年報31、55-61、2001）、他。

蔭山 歩（かげやま あゆみ）

里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター リサーチ・アシスタント

1977年大阪府生まれ。成安造形大学住環境デザインクラス卒業後、スローデザイン研究会、大津市教育委員会仰木公民館生涯学習専門員を経て、2004年より今森光彦の里山塾専属スタッフ、2005年より龍谷大学里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター リサーチ・アシスタント、2006年より成安造形大学非常勤講師。

学生の頃より集落の成り立ちについて関心をもち、滋賀を中心に建築・まちづくりなどの活動に参加する。近年、地域の聞き取りとフィールドワークを基盤にした地域の人と共につくる鳥瞰絵図を制作しながら、地域コミュニティのあり方や、持続可能な社会とアートとの関係を探る活動を続ける。

専門分野は、住環境デザイン。

主な制作・著作物に絵本『わらの家』（大岩剛一・蔭山歩、インデックスコミュニケーションズ、2006）、「浜大津鳥瞰絵図」（2006）、「仰木鳥瞰絵図」（2003）、「仰木地蔵マップ」（2002）など。主なプロジェクトに「里山・仰木地蔵プロジェクト」（2000～現在）、「心のふるさと仰木の里山マップ制作プロジェクト」（2003）、「新開地アートブックプロジェクト」（2003）など。

田中 三郎（たなか さぶろう）

郷土史研究家、大津市大萱在住

1932（昭和7）年新潟県中魚沼郡岩沢村（現在は小千谷市南部）生まれ。東レ株式会社および東レ合成フィルム株式会社に在職。定年退職後、南大萱史料調査保存会の一員として10年間、地元関連の古文書の調査解読にあたる。平成12年南大萱史編纂にあたり中世から近代を担当、全体の50%強を執筆する。

松田 庄司（まつだ しょうじ）

南大萱資料室、大津市大萱在住

1930（昭和5）年、滋賀県大津市大萱の農家の三男として生まれる。1944（昭和19）年から1945（昭和20）年、工業学校2年生のとき学徒動員として大津市の軍需工場で魚雷の生産に従事する。敗戦により復学。1948（昭和23）年、工業学校卒業と同時に繊維会社（東レ（株））に入社。同時に立命館大学（二部）に入学し、1953（昭和28）年卒業。工場勤務40年（電気設備・補修点検の現場作業を経て設備設計。新規工場建設、海外工場建設に従事）、1992（平成4）年、定年退職。定年退職後は農業（田畑60アール耕作）、郷土史作成に参加。

古市 秀樹（ふるいち ひでき）

田上郷土史料館員、（株）川勝法衣店勤務、大津市牧在住

1949年滋賀県栗太郡上田上村大字牧生まれ。

柴原 藤善（しばはら ふじよし）

滋賀県農業技術振興センター環境研究部長（病害虫防除所長兼務）、大津市芝原在住

1957年滋賀県大津市生まれ。名古屋大学農学部食品工業化学科卒業。滋賀県上級職員として採用後、農業試験場において、琵琶湖の水質保全に配慮した施肥・土壤管理技術の研究に従事、現在に至る。博士（農学）

日本土壤肥料学会常任編集委員および土壤教育委員会委員、滋賀県みずすまし構想推進委員会委員、NPO法人近畿アグリハイテク技術参与。

専門分野は、土壤肥料学、土壤微生物学、水環境学。

『環境保全型農業大辞典』（分担執筆）、『農業技術体系』（分担執筆）、他。

横田 岳人 (よこた たけと)

龍谷大学理工学部講師、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター研究スタッフ

1967年千葉県生まれ。京都府立大学農学部、名古屋大学大学院農学研究科で林学を学んだ後、国立環境研究所地球環境研究グループ森林減少・砂漠化研究チームでポストドク期間を過ごし、奈良女子大学理学部生物科学科助手を経て、2003年より現職。

専門分野は、森林生態学。

『奥山から里へ向かう動物たち』『里山学のすすめ』（丸山徳次・宮浦富保編、昭和堂、2007）、「林床からササが消える 稚樹が消える」『世界遺産をシカが喰う シカと森の生態学』（湯本貴和・松田裕之編、文一総合出版、2006）、「樹木における呼吸消費 - 器官レベルから個体レベルを経て群落レベルの呼吸消費へ - 」(共著、日本生態学会誌 53、61-65、2003)

丸山 徳次 (まるやま とくじ)

龍谷大学文学部教授（哲学・倫理学）、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター副センター長

1948年生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程哲学専攻依願退学、西ドイツ政府奨学生（DAAD）としてケルン大学留学。これまでにボーフム大学、ダルムシュタット工科大学客員研究員、京都大学大学院兼任講師などを併任。

専門分野は、現象学を中心とした現代哲学と環境倫理学を中心とした応用倫理学、社会哲学。

里山学とエコロジカル・フィロソフィを提唱中。

『里山学のすすめ』（編著、昭和堂、2007）、『岩波応用倫理学講義 2 環境』（編著、岩波書店、2004）、『[新版] 環境と倫理』（共著、有斐閣、2005）、『応用倫理学の転換』（共著、ナカニシヤ出版、2000）、『フッサールを学ぶ人のために』（共著、世界思想社、2000）、『生命倫理学を学ぶ人のために』（共著、世界思想社、1998）、共訳：ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』（未来社、1987）、ハイデッガー全集第1巻『初期論文集』（創文社、1996）、他。